

事業名

地域で育み、地域で支える 田原力

目標

教育力を高め、地域の力が子どもたちに生きる地域を目指す

今年度の取組紹介

「田原の子どもたちは田原に住むすべての人で育てる」の考えのもと、毎日の「交通安全立哨指導」や「田原ふれあい夢花壇」と銘打った環境整備活動、また地域活性化を目指した「田原体育まつり」等を実施しています。特に「どんごが丘整美作業」と銘打った奉仕作業は地域と学校の繋がりをを感じる取組です。毎年夏休みを利用して児童生徒全員と保護者、地域



教育協議会、有志の方々100名ほどの協力を得て学校の校内外の環境整備を行っています。また田原小中学校は「文化遺産に学び、地域の歴史と伝統のよさに気づき、自分たちの町を愛し、郷土に暮らすことに誇りと喜びを感じることでできる子どもの育成」を目指しています。



その目標を実現するために、地域に伝わる文化や伝統を次世代に伝えていくことが重要と考えています。伝統芸能保存会を中心に、田原幼稚園、小中学校合同で祭文踊り・千本づき(餅つき)など地域に伝わる文化や伝統を子どもたちに伝えていきます。また地域の伝統産業を指導するためゲストティーチャーとして協力していきます。

今年度のまとめ

田原は豊かな自然や伝統文化が地域の方々の努力で現在にまで引き継がれてきている地域です。幼稚園、小中学校は「ふるさとや自然を愛する心を育てる」「地域に伝わる文化や伝統を守り伝える」「豊かな心と確かな学力を身につける」を目標に様々な活動に取り組んでいます。本教育協議会では将来的に地域を支える人材の育成が大切であると考え、田原幼稚園、小中学校の目標に沿って地域としてできることを考え、学校園を支援していきたいと思えます。「田原が好き」「田原に誇りを持てる」子どもの育成に全力をあげていきます。

来年度に向けて

田原地区は以前から学校、幼稚園とともに歩んできた地域であり、さほど大きな変化は生まれていないかも知れないが、地域には「学校づくりへの意識」が深まったように思います。特に今年度は「双方向の連携」ということで地域と学校がさらに連携を深めることができました。具体的には公民館活動や地域の活動に積極的に参加する児童生徒の姿が見られます。また来年度より小学校・中学校ともにコミュニティスクールとして活動しさらに地域との連携を深めます。

来年度に向けての課題として、この活動の目的、意義を理解いただくために広報活動をさらに進めることと地域の方に「協力から連携へ」「参加から参画」の意識をもっていただき、より多くの方が参加できる体制をさらに構築していきます。

事業名

未来に夢つなぐ一貫教育 TAWARA

目標

9年間の学びを再構築し、将来の自己実現につなげる

今年度の取組紹介

【小中一貫教育の特性を生かした取組】 ～新しい学習プランの構築～

田原小中学校は前中後期の各ブロックの活動に重きを置き、上の学年にモデルを持つことを意識した活動を行ってきました。それは学校行事や各ブロックの行事を始め、日常生活のあらゆる場面でを行っています。またブロックの枠をはずした異年齢集団による活動も豊かな心を育てる活動として定着しています。



生徒が企画し、運営した文化祭「どんごが丘フェスティバル」も土曜日開催にし、地域の方々にも定着してきました。その文化祭で本年度は小中一貫教育10周年の記念行事も開催し、初代生徒会長・育友会長等のリレートークや歴代この学校にかかわった方々を招き、これまでの歩みを振り返ることができました。また体育の授業に組み入れられた学習支援ボランティアによる「剣道」の授業や、図書ボランティアによる図書室の整備なども定着してきました。

今年度のまとめ

「9年間の連続性・継続性を生かした一貫教育を行い、豊かな心と確かな学力を身につけた世界にはばたく人間を育成する」を学校目標に田原小中学校は小中一貫教育を進めてきました。この目標を達成するためには学校での取組はもちろん、地域との連携を大切にしながら取り組むことは必要です。豊かな心の育成にあたっては今後も地域との連携は不可欠ですが、さらに学んだことを発信することで田原小中学校の取組を知っていただき、双方向の連携を大切に活動を考えました。また9年間の一貫した学習活動を具現化し、将来にむけての生き方を考えるうえでキャリア教育を意識した活動も取り入れました。

来年度に向けて

活動の広がり等を考える時、人との関わりの少なさが、将来への夢へとつながっていきにくいという小規模校ゆえの課題が浮かび上がってきます。そんな中、この事業を通して様々な人と接する機会を得て、話を聞くことで様々な価値観があることを知り、それが将来に向けて自分の進路を考えるきっかけとなりました。本年度は公民館活動への参加や学校行事を休日開催することによって地域の方が多数参加していただけるようになりました。次年度はさらに積極的に外に出て、活動の幅を広げることができるよう計画します。また生徒自身が地域との繋がり的重要性を感じ、児童生徒会を中心として様々な場面での交流を企画していきます。

事業名

田原を学び、田原に学ぶ「未来にはばたけ田原っ子」

目標


自然豊かな田原を愛し、伝統文化を次世代に引き継ぐ

今年度の取組紹介

子どもたちにも興味を持って取り組めるような体験的な活動を中心に、保護者・地域・お年寄りの方などから伝統芸能や、伝統文化について教えていただく機会をもっています。具体的には、幼小中合同運動会に向けての祭文踊りや祭文語りの練習、また本番での祭文踊り、新年集会での千本づきによる餅つき等があります。



小学校では総合的な学習の時間等を活用して地域の方にきていただき、様々な取組を行なっています。

例えば「ふれあい夢花壇」と銘打った環境整備活動では地域の方とともに花を植え、花のことに
ついていろいろ教えていただいたり、田原の産業でもある「お茶」については地域の方に講師としてきていただいたり、お茶についていろいろと教えて
いただいたりしました。

また「どんごが丘フェスティバル」と銘打った文化祭では自分たちが学んできたことを地域の方に知ってもらおう発表を行いました。

今年度のまとめ

田原小学校は、まわりを里山と茶畑と田畑に囲まれた落ち着いた地域です。太安万侶の墓地があることでも有名であり、また全国で唯一「祭文」が残されている地区でもあります。室町時代に始まった「祭文」は奈良県の無形民俗文化財に指定されています。しかし、過疎化が進み、子どもたちの数も年々減ってきているのも事実です。

このような状況の中、学校においても、田原小中一貫教育校としての9年間の長いスパンの中で、子どもたちを見守り、地域とのつながりを大切に「ひと・もの・こと」の関わりを通して、ふるさとや自然を愛する心を育てる取組をすすめることが大切です。

来年度に向けて

これまでも様々な体験活動を通して、田原の伝統芸能や文化について教えていただくことが多かったです。今年度は学んだことを地域に発信していく活動を展開することができました。そのことで田原のよさに気づき、文化や伝統を守り、郷土を大切にしていこうという気持ちが育ってきています。また児童自身が地域との繋がり的重要性を感じ、児童生徒会を中心として様々な場面での交流を企画しています。具体的には公民館活動への参加や学校行事に地域の方が参画していただけるよう休日開催や出し物の企画をしていきたいと思ひます。

テーマ

のびのび わくわく 田原っ子

目標

地域の方や保護者・小中学校との連携を密にしながら、幼児がのびのびと感動を表現し、様々な経験や体験に積極的に参加できるような行事のあり方を探る。

今年度の取組紹介

◆タッチ&ケア・親子マッサージ教室〔なかよし会〕

地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、未就幼児も含む親子体験活動として初めて行いました。ゲストティーチャーの指導の下、保護者が子どもに頭や肩を優しくなでながらマッサージしたり、子どもが保護者にマッサージをしたりする場面もありました。お互いを思いやる気持ちや、ゆったりとした時間を過ごすことができたこと、保護者にも好評でした。

後日、高齢者施設に入所されている方々と交流を持ったとき「マッサージの時みたいに優しく肩をなでたら、喜んでくれるかな。」と、子ども自ら意識している様子が伺えました。



◆リンゴ狩り〔大柳生幼稚園のお友達〕

大柳生幼稚園の友達と一緒に、地域のリンゴ園にでかけ、リンゴ狩りを体験しました。リンゴを栽培してこられた方の思いや仕事の大変さをお聞きした後、収穫の仕方を教わり真っ赤なリンゴを自分で取って食べました。リンゴを口いっぱい頬張り、大柳生幼稚園の友達と一緒に食べたリンゴは格別の味だったようです。

後日、その感動を大きな画用紙にみんなで表現し、共同企画として園内子ども作品展に展示しました。それを見た、リンゴ園の方も「すごい迫力ですね。絵にかいてもらって嬉しいです。」と、子どもたちに思いを伝えてくださり、感動を共有することができました。



今年度のまとめ

・小規模園のため、普段の園生活では人とのかかわりに偏りが見られたり、体験の幅にも限りが見られたりします。地域の方をゲストティーチャーとして迎えて多様な体験活動は、子どもたちにとって刺激となり、新たな発見や感動を生み出し、溜め込んだり、表現したりという幼児の心の豊かさにつながったと思われます。

来年度に向けて

・これからも地域の方のご協力を得ながら、様々な体験活動を通して得られる貴重な経験を、幼児の育成につなげていきたいと思えます。また、幼児にとって憧れであり、手本となるモデルでもある、小中学校の児童・生徒との触れ合いや交流を重ね、引き続き連携を図っていきたいと思えます。

・地域の方や保護者・未就幼児も含めて、幼稚園教育を広く知っていただき、園活動に積極的に参加してもらうためにも、園からの情報発信を引き続き行っていきたいと思えます。